ドイツから来日の水野家子孫

落ち着く場所に感激の涙

”姫”と”殿さま”参る

新宮城の歴代城主と親族などの墓碑16基がある国指定史跡（新宮城跡附）水野家墓所＝新宮市新宮＝を13日、ドイツのハンブルクから来新中の水野家14代の孫・モニカ・ベロイターさん（49）と息子の健・ヨアヒム・ベロイターくん（11）がお参りした。保存された墓を見たモニカさんは「うれしいです。落ち着く場所」と感激の涙を浮かべていた。

水野家累世之霊塔に手を合わせるモニカさん

この日、モニカさん親子は、20年前から墓の清掃活動を行っている元新宮領主水野家顕彰会（松本吉殖会長）の案内で水野家の菩提（ぼだい）寺・本広寺で供養したあと、墓所を訪れた。

同墓所は、新宮城跡から南へ直線距離約3キロの市田川沿いの小高い舌状の丘陵地に位置。面積3254・77平方メートル。

石階段を上ると墓碑16基が参道に面して並ぶ。親子は参道をゆっくり歩いて、清水文雅本広寺住職の読経の中、つきあたりに建つ水野家累世之霊塔に線香を手向けた。

姫と殿さまの墓参に、強く感動しあふれる涙を抑えきれない松本会長は代わって、須川倍行県議に「これからも私たちが墓所を守っていきますので、どうか安心してください」と2人に言葉を掛けた。

このあと、2人は新宮城跡、市立歴史民俗資料館を散策した。14日は名所観光、15日は川舟下りを楽しんだあと、モニカさんの母・水野慈子（やすこ）さんの住む横浜市に向かった。ドイツへは20日帰国予定という。

元和5（1619）年、徳川家康のいとこの水野重仲（しげなか）が新宮領を治めた以降、水野氏は紀州藩江戸詰の附家老として新宮城を中心に明治初年まで10代にわたり政治を行った。

墓所が築かれたのは、重仲が卒去し、この地に分骨が納められた。この後、昭和3年まで順次墓碑が建立されたが、城主として本葬されたのは9代の忠央（ただなか）だけ。墓碑がまとまった形で現存しており、近世新宮城主の歴史と事跡をしのぶ貴重な遺産として、平成15年に新宮城跡附水野家墓所が史跡名勝天然記念物に指定された。

新宮市は、保存整備の基本計画（案）を取りまとめているところ。地震で破損した灯籠（とうろう）の修復や説明板設置などを短・長期で計画している。

問

妥勢に集中

し11議員が登壇

①町長の政治姿勢
田中　植議員

①町長の公約、実行
橋本　謙二議員

①町長の政治姿勢
曽根　和仁議員

①町長の政治姿勢（職員育成、町立病院の経営方針、観光・水産物のトップセールス）
②民間業者の産廃処分場
③新設は慎重に
③観光の町としての景観保全および施設整備
③国道42号汐入橋の歩道早期完成
蜷川　勝彦議員